

2/21 五, 3月

高齢者感染 入院必要だが…



急な症状が出たため病院を訪れた患者の車と検査を行うスタッフ(左)5日、埼玉県川口市(画像は一部加工)

新型コロナの新規感染者が西鉄道ばかり、入院を必要とする人が増えていきます。治療にあたる病院では、病床が連日ほぼ満床状態が続いています。現場の実態は…

(嘉藤敬佑)

埼玉協同病院

連日ほぼ満床

新型コロナウイルスが西鉄道ばかり、入院を必要とする人が増えていきます。治療にあたる病院では、病床が連日ほぼ満床状態が続いています。現場の実態は…

大輔さんは「受け時間外で急な症状が出た場所、車で来院してもらひ、その車内で検査を受けもらひついで」といいます。

検査キット不足

これは連日100人を超える患者が来ます。検査の陽性率は7~8割と運ぶといいます。最近では検査キットも少なくなりっています。同院では、陽性者が増えて午前中に受け付けをしてしまって、診察は夕方近くになることもあります。

医師は第6波の特徴について「初めのうちは、若者と外国人が多かったが、今は高齢者が多い」と話します。高齢者施設でのクラスター(感染者集団)が多くみられるようになりました。

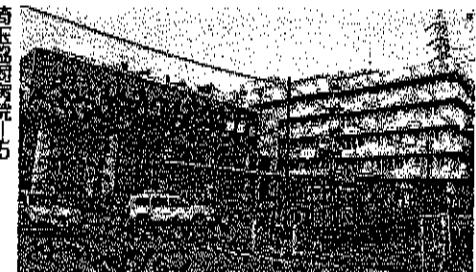
「太田(クロン株は黒化)」といふことこれらが、感染

者の数が増えるといふ重症者も増えます。むしむしの持病が悪化した患者で、検査をする必要があります。守谷能和医師は、「コロナに感染した認知症の人が、病棟内で迷つて徘徊する」もあると語ります。「そんな時は、感染も、診察は夕方近くになることもあります。」「そのためには、医師を専門に応じる必要があります。すぐに対応できるわけではない」

一般診療圧迫も

埼玉県は、人口10万人あたりの医師数が全国平均の241人に対し170人と全国最少(2018年)。特に川口市がある南部では、人口に対し医師数が少ないとされています。このため、新型コロナへの対応で一般診療に影響が出ています。救急搬送を断られるえないケースもあることがあります。

今のが課題について守谷医師は、「3回目のワクチン接種が遅すぎる」と指摘します。「今、入院しているのは、ワクチンを2回接種した高齢者が中心。3回接種が間に合わず感染し、入院するケースが多い」と話す。『毎週の回回接種が必要』と強調しました。



埼玉協同病院 15
埼玉県川口市